



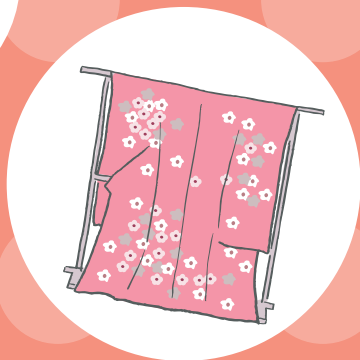
とう きょう



東京の

でん とう こう げい ひん

伝統工芸品



東京都

とう きょう でん とう こう げい ひん 東京の伝統工芸品について

みんなが住んでいる東京には、昔から大
切にうけつがれてきた「宝物」があるん
だ。それは、職人たちが、東京のまちで長
い時間をかけて、一つひとつ心をこめて
手作りしてきた「伝統工芸品」。手作りだ
からこそあたたかみや、使いやすくて、

じょうぶなところが、みんなの毎日を
もっと楽しく、豊かにしてくれるよ。昔か
らの文化を今に伝える、とても大切な役
割もあるんだ。今、東京都にある42種類
のすてきな伝統工芸品を紹介しよう！



むら やま おお しま つむぎ

村山大島紬

ルーツは奄美大島の大島紬

江戸・明治時代に人気だった着物

武蔵村山市で、昔から「高級絹織物」と
いう上品で美しい布が作られてきたん
だ。細かくていねいな「紬」（織りで絵
や柄を表現するために、織る前に糸を
染め分けること）模様が入っていて、ぼ
かしやにじみのある独特な柄がとくち
ょう。昔の人は
ふだん着と
して着てい
たよ。



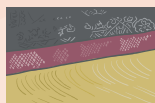
とう きょう ぞめ こ もん

東京染小紋

近づいてよく見るとびっくり！

江戸時代からつづく伝統技術

0.5～1ミリという、とても小さな模
様が、くり返しえがかれている染め物。昔、
おとの様が着物に自分の藩（おさめて
いる土地）の目印をつけたのが始まり。
近よると細かい点や線の模様におどろ
くはず。この
「かくれたお
しゃれ」が、江
戸の“粋”な心
をあらわして
いるんだ。



ほん ば き ばち しょう

本場黄八丈

としん
都心から南へ300キロ

ゆた はちしょうしま きもの
自然豊かな八丈島の着物

はちしょうしま くさき そ
八丈島で、島の草木だけを使って染め
きぬおりもの かばいろ
る絹織物。色は黄色、黒色、樺色（赤み
の強い茶黄色）の3色のみ。昔は黄色が
多かったけど、今は黒がほとんど。着物
をきもの
を知りつくした人が最後にたどりつくとい
わゆるほど、あこがれの工芸品だよ。



え ど き め こみ にんぎょう

江戸木目込人形

おもちゃじゃなくて

かけがえのないお守り



お父さんとお母さんが子どもの成長や
けんこう けんこう おく にんぎょう げんけい
健康をいのって贈る人形。体の原型に
みそ めのじ
ほった溝に、服になる布地をはめこんで
きめこ
いく「木目込み」という日本ならではの
ぎじゅつ
技術で作られる。子どもが大きくなった
りょうしん あいじょう
時にも、両親の深い愛情が伝わるよう
にとの願いがこめられているんだ。



とう きょう ぎん き

東京銀器

世界中の人をおどろかせた

わ せい ぎん き じゅうこう
和製銀器の重厚なかがやき



日本は昔、世界でもとくに多くの銀がと
れる国だったんだ。職人が厚さ1ミリく
らいの銀の板を、かなづちや木づちでた
たいて形を作っていく工芸品で、フラン
ス・パリの万国博覧会に出品されたとき、ヨーロツパの人々はその完成度の高
さにおどろいたんだって。



とう きょう て がき ゆう ぜん

東京手描友禅

はなやかな京都の着物に

え ど いき ひょうげん
江戸の“粋”を表現



きょう ゆうぜん か が ゆうぜん にほんさんだいゆう
京友禅、加賀友禅とならぶ日本三大友
禅のひとつ。手分けして作業するほかの
ゆうぜんぞ しよくにん したえ
友禅染めとちがい、一人の職人が下絵
から色をぬるところまで、すべて手描き
で仕上げているんだよ。東京の現代的
な街なみにぴったりの、わかかわかしい着
もの
物だね。



た ま おり

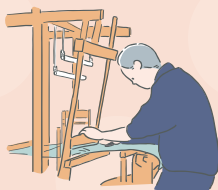
多摩織

人の手が生みだす

こちよい模様のずれ



昔から織物づくりがさかんだった八王子市に伝わる、5つの織物のよび名。染めた1200本もの糸をわざとずらしながら織ることで、独特な模様に計算された質の高い技。手仕事ならではの自然な風合いと、シンプルで飽きのこないデザインが、東京の“粋”を伝えているよ。

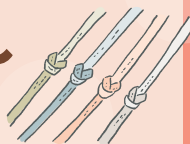


とう きょう

東京くみひも

紐を結ぶことを

仕事にした職人がいる



日本は、世界的に見ても紐が発達した国といわれているんだ。昔、「くみひも」が武士のよろいや刀に使われていたことから、日常で使う機会が広まり、今もうけつがれているよ。きつすぎず、ゆるむこともないように、職人が糸と糸をていねいに交差させて作っているよ。



え ど しっ き

江戸漆器

金属でも陶磁器でもない

長い間愛されてきた器



漆器は、漆という木のえきを何十回もぬり重ねて作る器のこと。とう器に負けないくらいじょうぶで、美しい光沢があるよ。熱い汁ものを入れても器が熱くならにくく、なめらかな口あたり。くさったり、ゆがんだりするのを防ぐ漆のとくちゅうをいかして、長い間愛用されてきたよ。



え ど べっ こう

江戸鼈甲

ウミガメの甲羅から

生みだされる美しい模様



ウミガメの一種「タイマイ」の甲羅から作られる。熱を加えることで、自由に形を変えられるのがとくちょう。職人の技術は、はりあわせる作業で一番あらわれるから、ひとつとして同じデザインは存在しないよ。江戸幕府の将軍・徳川家康も鼈甲のめがねを愛用したんだって。



え ど ほ け

江戸刷毛

こうげいひん とうぐ
工芸品を作るための道具が
いっしょに工芸品そのものに



しっしき うるし
漆器に漆をぬったり、人形に色をつけた
りと、ほかの伝統工芸品を作るために
かかせない道具。使うものに合わせて、
人や馬の毛、植物のせんいなど、いろい
ろな材料を使い分けている。毛がぬけ
にくくじょうぶで、使う
人に合わせて作られ
ているから、職人たち
に長く使われている
んだよ。



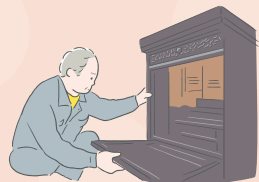
とうきょうぶつだん

東京仏壇

ふんや わざ
いろいろな分野の技を
あつめた総合芸術



お寺のデザインのえいきょうをうけた、
こま さいく したん こくたん
細かい細工がとくちょう。紫檀や黒檀と
いって特別な木や、くわの木の模様をそ
のままいかした、おごそかな美しさを
もっているよ。彫刻や、漆をぬる「塗装」、
くぎを使わない「指物」など、たくさんの
わざ そうごうげいじゆつ
技が集まった総合芸術ともいわれているよ。



え ど

かんざし

江戸つまみ簪

はなやうなどかモチーフ
きもの かみかざ
着物に合う髪飾り



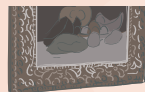
せいほうけい きぬ めの
正方形に切ったうすい絹の布を、ピン
セットでつまんで小さく折りたたみ、花
や鳥の形を作る髪飾り。お正月や七五
三などで、着物を着た女性の髪を美しく
ひきたてるよ。花や鳥は、本当に生きて
いるみたいに元気でいきいきして見え
るんだ。



とうきょうかくぶち

東京額縁

絵の価値を高める
世界にひとつのオーダーメイド



かいが かち
絵画の価値をさらに高めるために、絵
にに合わせて作られる額縁。職人は画家
と話し合い、作品に一番合うデザインを
考えていくんだ。はじめからおわりまで
自分たちで作ることで、いろいろな注文
にこたえられる作品
を作ってきたんだ。
しよくにん てしごと
職人は手仕事なら
ではの味わいを大
事にしているよ。



え ど ぞう け

江戸象牙

きば
ゾウの牙を使用
けいじゅつひん
きちょうな芸術品



きば ちゅうごく ぞう けいひん
ゾウの牙をほって作られる工芸品で、昔
中国から伝わってきたんだ。なめらかな
はだ とうたく おきもの
肌ざわりや光沢がとくちょうで、置物や
かみかざ こと しみ
髪飾りなどに使われてきたよ。箏や三味
せん わがっき
線のような和楽器にも使われていて、手
あせ せいしつ
の汗ですべりにくく、手になじむ性質は、
えんそう か
多くの演奏家に愛されているんだ。



え ど さし もの

江戸指物

くぎは一本も使わない
え ど
それが江戸のあたりまえ



さしもの
「指物」は、くぎをまったく使わず、木の板
にほった「でこぼこ」を組み合わせて作
る家具や小物のこと。金具も必要な分
しか使わず、くわ きり うつく
し模様をいかしたデザインがとくちょう。

オーダーメイドで、見え
ない部分でも手をぬか
ない職人の心意気に
よって、何十年も使いつ
づけることができるよ。



え ど すだれ

江戸簾

れきし まんようしゅう とうしやう
歴史が古く「万葉集」にも登場
すず
涼しげな見た目



まど かく
家の窓の外につるし、日よけや目隠しと
して使われるすだれ。風通しがよく、天
ねん そざい かお すず
然素材のさわやかな香りが、夏を涼しく
きょうと
感じさせてくれるよ。京都のすだれとく
らべて、使いやすくてシンプルなデザイン
ふ ぜい
ン。風情があり、家のインテリアとしてく
かいてき みりよく
らしになじむ快適さが魅力。



え ど さら さ

江戸更紗

めのもよう
インド生まれの布模様
え ど うつく
「江戸」らしい美しさ



ねん いじょうまえ
3000年以上前にインドで生まれた、も
めんの布を染める技。そのあと、アジア
めい そ わざ
やヨーロッパに広まったんだ。日本の伝
とうてき かた そ
統的な「型染め」を使い、江戸らしい、お
いろ あ
ちついた色合いにしているよ。多いとき
には90枚もの型紙を使い、色を重ねる
こと、外国の更紗にはない、美しい色
へん か
の変化を生みだしているんだ。



とう きょう ほん ずめ

東京本染ゆかた・ 手ぬぐい

本物のゆかたを知る人は
日本人でも少ない!?



ゆあ 湯上がりに着る着物としてしたしまれ、
きもの
今ではおまつりや花火大会など夏の行
ぎよう
事で着られるようになったゆかた。日本
じ
だけの手法で染められていて、ちがう色
しゅほう そ
を同時にそそぐことで生まれる美しい色
どう じ
のグラデーションは、職人の高い技術が
しよくにん ぎじゆつ
あってこそ。



え ど わ ざ お

江戸和竿

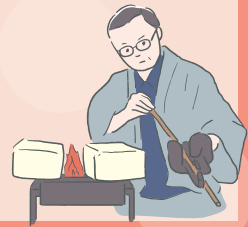
え ど ちやうにん

江戸の町人は

つりの道具にさえ粋を求めた



日本人にとって、つりは趣味として楽し
たいへいよう
むもの。とくに太平洋やたくさんさんの川が
とうきよう つりざお
ある東京はさまざまな釣竿があったん
だ。釣る魚の種類に合わせて、竹を使い
しゅるい
一本一本オーダーメイドで作られる。魚
けい さん
の力をうまくにがすよう計算された「し
なり」は、ほかの竿
さお
では味わえない最
あじ さい
高の釣りごこちを
こう つ
生みだしているよ。



え ど い しょう ぎ にん ぎよう

江戸衣裳着人形

でん とう
昔からの伝統文化

いのち
人形に生命をふきこむ



日本では昔からお父さんとお母さんが
せいちよう けん こう
子どもの成長や健康をいのって人形を
おく ぶん か
贈る文化がうけつがれてきた。職人の
しよくにん
わざ
技により木ぼりで人のような空気感を
くう き かん
ひょうげん
表現したり、ガラスの目を入れたりする
ことで、人形に生命をふきこんでいくん
いのち
だ。やさしさや力強さが感じられるよ。
ちからづよ



え ど きり こ

江戸切子

しよくたく
食卓をいろどる

うつく
美しい色ガラス



ヨーロッパの「カットガラス」の技術を取
ぎじゆつ
り入れ、色ガラスの表面をけずり、美し
ひようめん うつく
い模様をきざみこんだ工芸品。色被せ
も よう こう がい ひん いろ き
ガラスの厚さは1ミリもなく、細かくほる
あつ こま
ことで、シャープで美しいかがやきが生
うつく
まれる。魚の卵がならんだように見える
たまご
「魚子」など、20種類ほどの伝統的な模
ななこ しゅるい でん とう てき も
よう
様があるよ。



え ど おし え は ご いた

江戸押絵羽子板



おいわいで贈られる羽子板

絵柄は日本らしい文化がモチーフ

お正月の伝統的な遊び、羽根つきで使う羽子板。女の子の誕生日に贈られ、元気な成長をいのる縁起物でもあるよ。布でわたをくるみ、立体的な絵に仕上げる「押絵」の技が使われ、美しくいきいきとした表情をあらわしているんだ。



え ど かっちゅう

江戸甲冑



強さのシンボル・よろい

子どもへの愛情をあらわした五月人形

昔の武将が着ていた「大鎧」を、本物そっくりに再現したもの。男の子の健やかな成長をいのる端午の節句に、強さのシンボルとして飾られ、そのあと五月人形として飾られるようになったよ。部品も手作業で作るので、完成までの作業は5000もあるんだって。



とう きょうとう こう げい

東京藤工芸

くらしと体にとけこむ

芸術的な日用品



藤という東南アジアの植物で作られた、イスやかごなどの工芸品。軽くてじょうぶで、曲げたり結んだりしやすいので、昔からいろいろな製品に利用されてきたよ。組み立てはすべて手作業で、くぎが見えないようにするなど細かい心くばりがされているんだ。



え ど し しゅう

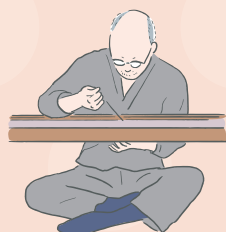
江戸刺繍



はりを使った細かな糸が

美しい絵のような芸術を生む

日本の刺繍のはじまりは1400年も前。絹の糸を使い、布に美しい絵や模様をぬいあらわす技術で、多いときには数万回もはりを動かし、細かな絵のような作品を作り上げているんだ。絹糸ならではの美しい光沢があって、見る角度によってかがやきが変わるのがとくちょう。



え ど もく ちょうこく

江戸木彫刻

どうく
道具で仕上げる
うつく
美しい木の彫刻



お寺や神社の柱、おまつりで使う山車
などに飾られる、木のほり物。仏像をほ
る仏師が、大きな穴をほるのに使うノミ
と細かくほるのに使う小刀を使い分け
るのに対して、この職人は何百種類も
のノミで仕上げているんだ。ヤスリをか
けず、ノミの切り

口だけで木の
かがやきを引き
出しているよ。



とう きょうちょう さん

東京彫金

さん やく
金属をキャンバスに
に ほん が
日本画をえがきだす



金属の板に、鑿という道具を使って日本
画のような絵をほる技術。ほったあとに
深い部分と浅い部分ができることで、筆
で書いたときのかすれぐあいを再現し
ているよ。指輪や着物の帯留めなど長
い間愛用する人が多いんだ。



とう きょううち は もの

東京打刃物

この国ではハサミでさえ
に ほん とう
日本刀と同じように作られる



日本刀を作る「刀鍛冶」の技術をうけつ
いで作られた、包丁やハサミ。職人の手
で作られる刃物は美しい形とかがやき
をもっているよ。日本刀のように、すると
い切れ味がとくちょう。軽くてもちやす
く、その美しさを使
いごこちのよさが
100年つづくといわ
れる一生もの。



え ど ひょう ぐ

江戸表具

なんひゃくねん
何百年も前の作品が
うつく
今も美しくのこっている理由



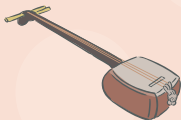
数百年前の書道や絵画が、今も美しく
のこっているのは「表具」という技術の
おかげ。古くなった作品のまわりを新し
い布や和紙でカバーし、かけじくなどに
仕立て直すことで、作品を長もちさせ、
さらに美しく見せて
くれるんだ。職人の
こだわりが、生きつ
づけているよ。



とうきょう しや み せん

東京三味線

えん そう か しよくにん
演奏家と職人の
ぎょうえん ね いろ
共演で生まれる音色



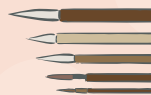
400年以上の歴史をもつ和楽器。ひとり
の職人が仕上げまでを行い、演奏する
人とよく話し合っ一人ひとりに合った
ものを作るのがとくちょう。演奏家のう
でのよさを見きわめたうで、素材をえ
らび、一番よい音色を出しやすいように
作りあげる、職人
と演奏家の共同
作品なんだ。



え ど ふで

江戸筆

しよ どう か が か あい よう
書道家や画家も愛用
しよくにん ふで
職人のこだわりが生む筆



昔、江戸に住むたくさんの人々に、学問
や芸術が広まるのを支えた筆。そのほと
んどがオーダーメイドで作られ、有名な
書道家や画家も使ってきたんだよ。ヤギ
や馬など、動物の毛を使いわけて、すみ
や絵の具をふくむ量が一番よくなるよう
に作られているよ。



とう きょう む じ やめ

東京無地染

ぬの
布を好きな色に染める技術
自然の中にある色をいかす



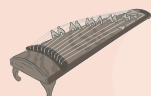
お客様の好きな色に合わせて、白い
生地を一枚の布に染め上げる、もっと
も基本的な染め方。色の見本は170色
以上あり、職人は5つの基本の色をまぜ
合わせ、理想の色に近づけていくんだ。
自然にあるようなやさしい色合いがとく
ちようで、一度染
めたものをほか
の色に染め直す
こともできるよ。



とう きょう こと

東京琴

えん そう か
演奏家のうで前に合わせて作る
世界にひとつだけの楽器



琴に使われる桐の木は産地やそだった
環境でかたさや味わいがちがうんだ。職
人は甲羅の厚さを調節しながら内側を
けずっていく。とくに胴体となる桐をけ
ずる作業は、音色を決める大事なところ。
技と経験が演奏と合わさり、ひとつ
の音を生みだしている。



え ど

江戸からかみ

くらしは変わっても

美しいと思う心はうけつがれる

昔の日本の家で、部屋を区切るふすまを飾るために作られた紙。今はふすまだけでなく、壁紙やポスターのように、部屋のインテリアとしても使われている。職人による草花などの伝統的な模様は、現代の部屋にもよく合うので、ホテルなどにも

広まっているんだ。



え ど もく ほん が

江戸木版画

本物の風景よりも

あざやかに表現

江戸時代に大人気だった「浮世絵」を支えてきた木版画の技術。絵を描く「絵師」、木をほる「彫師」、紙に色を重ねる「摺師」の3人でひとつの作品を作っている。現実よりもあざやかで、いきいきとした浮世絵の本当の魅力を伝えているんだよ。



とう きょう しっ ぽう

東京七宝

国の英雄をたたえる技術を

毎日のファッションに

金属の板の上に、色ガラスの粉を高温で焼きつけて、模様をえがいた工芸品。色ごとに何回も焼きつけて、表をみがぐことで、模様がくっきり見えるようにするんだ。はっきりとした色のさかい目や、あざやかな絵の細かさがとくちょう。ピアスやペンダントなど、いろいろな製品が作られているよ。



とう きょう て う え

東京手植ブラシ

職人の手作業で

やさしい肌ざわりが生まれる

職人が一つひとつ手で毛を植えて作るブラシ。馬やぶたなどの動物の毛を使い、手の感覚をたよりにちょうどいい量を植えていくことで、毛がぬけにくいじょうぶなブラシになるんだ。馬の毛で作られた洋服ブラシは、カシミアなどのデリケートな生地をいためない、特別な肌ざわりだよ。



え ど からす

江戸硝子

けいさん
計算された飲み口は
あじ か
水の味さえ変えてしまう



外国と日本の技術が合わさって生まれたガラス製品。たくさんの種類を少しずつ作るのがとくちょうで、注文に合わせたオリジナルも正確に作り上げているよ。口あたりがよいグラスは、水やお酒の味、香りを引き立てるために計算された形をしていて、職人の技術は海外でも高い評価をうけて
ひょうか
いるよ。



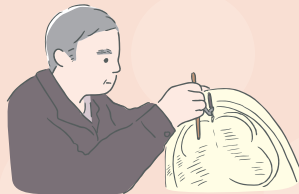
え ど て がき ちょうちん

江戸手描提灯

え ど し たい か
江戸時代の描き方を
うけついだちょうちん



細い竹のほねぐみに紙をはり、家のものようである「家紋」や文字を手でえがいたちょうちん。どんなにふくざつな家紋でも、道具を使わずに自由にえがく職人の高い技術が光る。折りたたんでもちはこびしやすく、お土産にもぴったり。部屋を飾るインテリアとしても人気があるんだ。



とう きょう よう がさ

東京洋傘

ゆううつな雨の日を
か ま ほう
よろこびに変える魔法



ほね
骨を作る人、もち手を作る人、き じ
生地を作る人、それらを組み立てる職人とみんな
きようりよく かさ
で協力して作られる傘。雨の日もはれの日も、天気に合わせて使うことで、気分を明るくしてくれるんだ。美しさ
うつく
とやささを両方そなえた東京洋傘はパランスのよい形で、
ゆた
私たちの心を豊かにしてくれるよ。

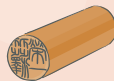


とう きょう て ぼ

いんしょう

東京手彫り印章

さざよう
すべての作業は
“世界にひとつ”のため



自分の名前がほられた、世界にひとつだけの証明となるはんこ。江戸時代からつづくはんこは、文字のデザインからほり上げるまで、すべての作業をひとりの職人が行っているんだ。髪
さざよう
の毛一本分という、気の遠くなるような細かさ
しよくにん かみ
で仕上げるはんこは、機械で
き かい
は作れない、
げいじゅつさくひん
芸術作品とも
いえるよ。

